



「アサイゲルマニウム」を使用した、ガン全般/転移ガン抑制/疼痛緩和/各種難病/間質性肺炎/美白/皮膚修復促進作用などの治癒・改善・予防の効果に対する症例研究

アサイゲルマニウムは浅井一彦博士の長年の苦勞の末、1967年に無機ゲルマニウム化合物からの化学合成によって創り出された世界で最初の水溶性有機ゲルマニウム化合物です。

安全性は極めて高く、健康食品としての安全性自主点検の認証登録に至っている素材で、様々なサプリメントに使用されています。

アサイゲルマニウムは自然免疫系の細胞活性化に働くことが知られ、40年以上前から医学領域、特にガンや多くの難病の症状を改善・回復させたという内容の研究報告が多くなされています。また、基礎研究の分野でも様々な鎮痛・抗炎症・抗酸化などの多彩な生理活性が明らかにされています。

特に医薬品開発での治験においては、認証薬にはならなかったものの、末期ガン疼痛などに有効だった所見が多く、QOLの改善においてはかなり有用であると定評のある素材です。近年、生体内の重要分子との相互作用を介しての生理作用発現が明らかにされており、再発見に注目されています。

特に、最近では免疫系での研究が再度進んできており、マクロファージをM1に分化させガン貪食を亢進させることが明らかにされました。一方で炎症の原因となるインフラマソームの形成を抑制することで様々な炎症性の疾患を局所的に緩和できる可能性が示されてきており、過去の免疫活性化の様々な研究と合わせて実際の臨床の現場での有用性を評価することが重要だと考えられます。

更に、浅井一彦博士は有機ゲルマニウムが種々の病気に対して有効だった症例を多数報告しています。その症例はガン、ベーチェット病、サルコイドーシス、スモン病、再生不良性貧血、白血病、脳軟化症、蓄膿症、歯槽膿漏、小児喘息、脳障害児、小児腎炎、頭痛、子供の進行性筋萎縮症、蒙古症、やけど、風疹、麻疹など非常に多岐にわたっています。

こうした事実から当会ではアサイゲルマニウムをサプリメントとして摂取する事でガンや各種難病などに対する効果を測る、症例の積み上げによる多施設共同研究を行うことにしました。また、アサイゲルマニウム研究において免疫系のT細胞分化への影響も含めた評価も行っていく予定です。

素材投与期間 1クール（3ヶ月）～4クール（1年間）程度

素材投与方法 経口投与（サプリメント）

効果測定項目 画像診断・血液検査、医師所見など

＜アサイゲルマニウム＞

名古屋大学名誉教授で理学博士の手塚修文博士のテッポウユリの自家受粉の研究で有機ゲルマニウムはサイクリックAMPやアセチルコリンの合成系に關与する酵素を誘導し、活性を促進する可能性があるとして報告されています。

サイクリックAMPはガン細胞を短時間で正常細胞に戻す作用が確認された物質です。サイクリックAMPを卵巣ガン細胞に加えると5時間で正常な繊維芽細胞に変化したと1979年にコロラド大学研究グループにより発表されています。

さらに脳腫瘍細胞にサイクリックAMPを少量（1μg）加えて30日間培養したところ正常な細胞になった事も報告されています。

当会ではこうした事実からアサイゲルマニウムのガン細胞や腫瘍を正常化する可能性にも注目しています。

栄養成分表示（1粒あたり）

| | |
|----------|----------|
| エネルギー | 0.54kcal |
| タンパク質 | 0g、 |
| 脂質 | 0g、 |
| 炭水化物 | 0.13g、 |
| 食塩相当量 | 0.07mg |
| 有機ゲルマニウム | 250mg |

お問合せは

日本先進医療臨床研究会
03-5542-1597
info@jscsf.org